

1. 産業医学総合研究所刊行・発行物

名 称	発 行	規格,部数	主な配布先・内容
1) INDUSTRIAL HEALTH *			
Vol.40 No.2	2002. 4	A4, 156 頁	配布先:厚生労働省関係機関,日本を含む世界各国の大学・研究機関・図書館,民間企業. 内 容:英文原著論文を主とした国際学術季刊誌,年4回発行.
Vol.40 No.3	2002. 7	A4, 72 頁	
Vol.40 No.4	2002. 10	A4, 101 頁	
Vol.41 No.1	2003. 1	A4, 54 頁 各 1,300 部	
* 編集委員を次頁に掲載			
2) 産業医学総合研究所年報,平成13年度版	2002. 11	A4, 172 頁 1,000 部	配布先:厚生労働省関係機関,大学,研究機関,図書館. 内 容:平成13年度研究成果の紹介.
3) 産業医学総合研究所パンフレット	2003. 3	A4, 18 頁 3,000 部	配布先:来所者. 内 容:産医研概要の紹介.
4) 産医研ニュース			
第9号	2002. 4	A4, 各8頁	配布先:厚生労働省関係機関,大学,研究機関,図書館. 内 容:産医研の研究活動・社会貢献・その他の紹介.年2回発行.
第10号	2002. 10	2,200 部	
5) 労働衛生重点研究推進協議会・第二年次報告書	2003. 3	A4, 150 頁 2,000 部	配布先:厚生労働省関係機関,大学,研究機関,図書館. 内 容:平成14年度労働衛生重点研究推進協議会活動報告.
6) 平成14年度研究評価報告書	2003. 3	A4, 59 頁 150 部	配布先:厚生労働省関係機関. 内 容:平成14年度研究評価の報告.
7) 眠りがいい働きがいきがいい,初版,独立行政法人産業医学総合研究所 睡眠・ストレス研究チーム	2003. 3	B5, 6 頁	配布先:厚生労働省関係機関,大学,研究機関,図書館. 内 容:労働者にとっての睡眠の重要性を簡潔に紹介.

Industrial Health 編集委員一覧

<i>Editor-in-Chief</i>	Shunichi ARAKI
<i>Managing Editor</i>	Takeshi HONMA (<i>Vol. 40, No. 2</i>), Susumu SAITO (<i>Vol.40, Nos.3,4</i>), Junzo SAEGUSA (<i>Vol.40, Nos.3,4, Vol.41, No.1</i>), Naomi HISANAGA (<i>Vol.41, No.1</i>)
<i>Advisory Editors</i>	Shixiong CAI, Ho Keun CHUNG, Philippe GRANDJEAN, Masayuki IKEDA, Futoshi IZUMI, Kaye H. KILBURN, Bengt KNAVE, Akira KOIZUMI, Shigeji KOSHI, Philip J. LANDRIGAN, Holger LUCZAK, Choong Nam ONG, Haruhiko SAKURAI, Thomas J. SMITH, Tsutomu TAKATA, Gerhard TRIEBIG, Osamu WADA, Sohei YAMAMOTO, Itaru YASUI (<i>Vol.40, Nos.2, 3, 4, Vol.41, No.1</i>), Kathleen M Rest (<i>Vol.40, Nos.3, 4, Vol.41, No.1</i>)
<i>Editors</i>	Norito KAWAKAMI, Yangho KIM, Reiko KISHI, Norihiko KOHYAMA, Shinji KOIZUMI, Yasutaka OGAWA, Akira OKAYAMA, Tadashi SAKAI, Hisataka SAKAKIBARA, Isamu TANAKA, (<i>Vol. 40, Nos. 2, 3, 4, Vol. 41, No. 1</i>), Junzo SAEGUSA (<i>Vol. 40, No. 2</i>), Susumu SAITO (<i>Vol.40, No.2, Vol.41, No.1</i>), Takeshi HONMA (<i>Vol.40, No.3,4, Vol.41, No.1</i>), Takashi HARATANI, Mamoru HIRATA, Seong-Kyu Kang, Shinji KUMAGAI, Lumie KURABAYASHI, Muneyuki MIYAGAWA, Toshihiko MYOJO, Katsumi OHTANI, Tsutomu OKUNO, Krishna Gopal RAMPAL, Kazuhito YOKOYAMA, Ruisheng WANG (<i>Vol. 41, No. 1</i>)
<i>Associate Editors</i>	Hiroshi JONAI, Yoshifumi NAKANISHI (<i>Vol.40, No.2</i>), Takashi HARATANI, Muneyuki MIYAGAWA, Toshihiko MYOJO, Katsumi OHTANI, Tsutomu OKUNO (<i>Vol. 40, Nos. 2, 3, 4</i>), Ruisheng WANG (<i>Vol.40, Nos.3, 4</i>)
<i>Editorial Secretaries</i>	Yoshifumi NAKANISHI (<i>Vol. 40, No. 2</i>), Lumie KURABAYASHI (<i>Vol.40, Nos.3, 4</i>), Hitoshi KUBOTA (<i>Vol. 40, Nos. 2, 3, 4, Vol. 41, No. 1</i>)

2. ホームページ

産業医学総合研究所のホームページ(URL は, <http://www.niih.go.jp>) は, 本研究所の研究成果をはじめとした諸情報を多くの利用者に提供するとともに, 広く社会から研究所業務への意見を募集するために平成 8 年 6 月に開設された。平成 14 年度には, ホームページを, 利用しやすくすることと内容の充実を目的に刷新した。平成 15 年 3 月 31 日現在のホームページの構成は以下のとおりである。産業医学総合研究所のご案内, 研究部の活動, 産医研ニュース, 研究情報, 研究業績, 外部評価の結果, 年報, 国際学術誌 Industrial Health, これからの日本の労働衛生研究戦略, 独立行政法人としての公表事項, 情報公開, 研究施設ご利用のご案内, お知らせ, 関連サイトへのリンク, 検索, 利用者からの意見・質問・要望等の受付窓口。

平成 14 年度に行った主な更新点について以下に列記する:

- 1) 表紙に相当する画面を一新し魅力的デザインにした。利用者が知りたい情報を容易に入手できるようにした。
- 2) 産医研ニュースを創刊号を含め, 全号を PDF で閲覧可能にした。
- 3) 平成 13 年度年報を, 英文の章を除き, 全文 PDF で閲覧可能にした。
- 4) 国際学術誌 Industrial Health に発表された論文の要約だけが従来は掲載されていたのを改めて, 2000 年以降は論文の全文を PDF で閲覧可能にした。
- 5) “Information お知らせ”を新設し, 新着情報の明示を行うこととした。

ホームページへのアクセス数とリクエスト内容は, 所内 LAN 運営委員会が, 継続的にモニターしている。平成 14 年にアクセスした人は 64,081 人, 1 人の平均アクセス回数は 10.2 回, 総アクセス数は 655,151 件であった。平成 13 年に比べ, 総アクセス数は 7% 増加した。平成 14 年度のアクセス数をコンテンツ別にみると, 1 位が国際学術誌 Industrial Health, 2 位が研究所案内, 3 位が最近の研究, 4 位が研究業績, 5 位が研究所に係る公表事項, 6 位が 21 世紀の労働衛生研究戦略協議会, 7 位が研究評価報告書要約, 8 位が情報公開, 9 位が産医研ニュース, 10 位がお知らせであった。

3. テレビ, ラジオ放送, 新聞等

(1) テレビ放送

発表先	氏名
1) テレビ朝日「古館の買い物ブギ！」	平成 14 年 7 月 20 日 高橋正也
2) 日本テレビ放送網「メガネの科学」所さんの目がテン！」	平成 14 年 10 月 20 日 斉藤進

(2) ラジオ放送

発表先	氏名
1) 日本短波放送 医学講座「過労死の産業保健対策」	平成 14 年 5 月 29 日 荒記俊一

(3) 新聞等

	発表先	氏名
1)	産経新聞「VDT 症候群 - パソコン作業で目の疲れ・肩こり」 平成 14 年 8 月 28 日	斉藤 進
2)	教育医事新聞「小中高 100 校コンピュータ教員アンケート」 平成 14 年 11 月 25 日	外山みどり, 城内 博
3)	日経 WOMAN「パソコン疲労」 平成 15 年 1 月号別冊	斉藤 進
4)	日経プラス1 平成 14 年 4 月 13 日	高橋正也
5)	朝日新聞「パソコン教育 子供も肩こり」 平成 14 年 5 月 28 日	外山みどり
6)	読売新聞社生活情報部 平成 14 年 6 月 14 日	高橋正也
7)	北海道新聞社編集局生活部 平成 14 年 7 月 13 日	高橋正也
8)	共同通信社 地方紙医療欄用配信記事 北日本新聞 平成 14 年 7 月 10 日 大分合同新聞 平成 14 年 7 月 15 日 神奈川新聞 平成 14 年 7 月 22 日 埼玉新聞 平成 14 年 7 月 26 日 岐阜新聞 平成 14 年 7 月 29 日	高橋正也
9)	日本経済新聞社編集局科学技術部に資料提供 平成 14 年 7 月 20 日	高橋正也
10)	日経ホーム出版社 日経インテリッセ編集部資料提供 平成 14 年 10 月 22 日	高橋正也
11)	日本経済新聞社日経 BP エキスパート 平成 15 年 3 月 13 日	倉林るみい

(4) その他

	発表先	氏名
1)	あさお区民祭りにおいて糖尿病網膜症展示説明 平成 14 年 10 月 13 日	鈴木 亮
2)	目の愛護委員(川崎市) 平成 14 年 10 月 11 日	鈴木 亮

4. 研究所の一般公開

研究所の一般公開を、多くの方が参加しやすい科学技術週間の土曜日である平成 14 年 4 月 20 日に実施し、主要な研究成果を分かりやすく紹介するとともに、音響振動実験棟や人工環境室をはじめとする大型の研究施設を公開した。一般公開にあたり、タウン誌や研究所ホームページ等、複数のメディアによる案内と広報を行った。参加者は、研究所所在地の川崎市や地元の方々等の約 50 名であった。一般公開を実施することにより、今後とも研究所の透明性を確保するとともに説明責任を果たして行きたいと考えている。

公開内容	担当者氏名
1. 産業医学総合研究所の概要	宮川宗之
2. 講演	
(1) どうして“この病気の原因は仕事だ”なんていえるんですか！？ わかりやすい疫学の話	毛利一平
(2) 働きがい, 眠りがい, 生きがい	高橋正也
(3) ガーゼマスクと労働衛生用防じんマスク	明星敏彦
3. ポスター展示	戸谷忠雄, 本間健資, 王瑞生, 高橋正也, 田井鉄男, 上野 哲
4. 所内見学	引率者: 久保田久代, 萩原正義, 中田光紀, 安彦泰進, 三木圭一, 久保田均
(1) 図書室	久保田 均
(2) 工学実験施設	柴田延幸
(3) 音響振動実験施設	前田節雄
(4) 電子顕微鏡室	芹田富美雄, 篠原也寸志
(5) 人工環境室	澤田晋一
5. 質疑応答	斉藤 進, 小川康恭, 本間健資, 小泉信滋, 神山宣彦, 三枝順三, 宮川宗之, 島村憲義

5. 研修，見学者

平成 14 年度に団体として研究所を見学した例は，下記のとおりである。

- ・ 厚生労働省労働衛生専門官研修(20 人，講義と所内見学)
- ・ JICA マレーシア労働安全衛生能力向上プロジェクトに係る研修(作業環境測定，労働安全衛生行政，局所排気装置等)
- ・ 台湾行政院劳工委员会劳工安全衛生研究所研修(5 人，職業病予防のための健康診断におけるバイオ指標診断技術)
- ・ 職業病予防のための健康診断におけるバイオ指標技術
- ・ 鉄道総合技術研究所初任者研修(1 人，労働衛生・作業環境・心理学)
- ・ JICA 労働安全衛生セミナー(9 人，研究所紹介と所内研究施設見学)
- ・ JICA カウンターパート研修インドネシア労働基準総局長(1 人，研究所紹介と所内研究施設見学)
- ・ 神奈川県労働審議会労働災害防止部会(委員 6 人と神奈川県労働局 9 人，研究所紹介と所内研究施設見学)，
- ・ 中央労働委員会関東区域地方調整委員(委員 8 人と事務局 7 人，研究所紹介と所内研究施設見学)
- ・ 川崎市立長尾小学校(3 年生 18 人と引率者 1 人，及び 4 年生 6 人と引率者 1 人)
- ・ 第 7 回産医研 - 産生研 研究交流会に伴う所内見学(5 人)

その他，厚生労働省安全衛生部，中央労働災害防止協会等からの見学者を随時受け入れた。見学に際しては，希望者の専門分野及び要望等に応じて，柔軟に対応した。見学内容の例として上記のうち 3 件の詳細を次に示す。

(1) 厚生労働省・労働衛生専門官研修

【日 時】平成 14 年 6 月 13 日(木) 10 時～16 時

研修員 20 人，引率者(担当教官)1 人

見学内容	担当者氏名
1. 概況説明	荒記俊一
2. 講義	
(1) 職場の温熱環境 - 暑さ・寒さ対策	澤田晋一
(2) 職場のメンタルヘルス～過労自殺を中心に～	倉林るみい
3. 所内見学	
	引率者： 萩原正義，岩切一幸，毛利一平
(1) X 線回折実験室	篠原也寸志
(2) 動作学実験室	福田秀樹
(3) 生物化学実験室	王 瑞生
(4) 工学/非定常作業実験施設	菅野誠一郎
(5) 防毒マスク/ガス実験室	高野継夫，古瀬三也
(6) 音響振動実験施設	前田節雄，高橋幸雄
(7) 人工環境室	澤田晋一
4. 質疑応答	斉藤 進，小川康恭，本間健資， 小泉信滋，神山宣彦，三枝順三， 島村憲義

(2) 川崎市立長尾小学校 3 年生の所内見学

当該見学は、研究所を広く公開し、情報提供するとともに地域との交流を図ることを目的として実施された。産業医学総合研究所におけるプログラムは以下のとおり。

【日 時】平成 14 年 10 月 16 日(水) 10 時～11 時

3 年生 18 人と教師 1 人

見 学 内 容	担当者氏名
1. 所内見学	
	引率者： 宮川宗之, 外山みどり
(1) 電子顕微鏡室	篠原也寸志
(2) 音響振動実験施設	前田節雄
(3) 行動毒性実験室	宮川宗之
(4) 図書情報室	
2. 概況説明, 質疑応答及びアンケート	宮川宗之, 外山みどり

(3) 国際協力事業団 (JICA) 労働安全衛生セミナー

【日 時】平成 14 年 10 月 30 日(木) 14 時～17 時

研修員等 10 人

見 学 内 容	担当者氏名
1. 挨拶と概況説明	斉藤 進
2. 所内見学	
	引率者： 佐々木毅, 三木圭一
(1) 人間工学実験室	岩切一幸
(2) 労働生理実験室	岩崎健二, 佐々木毅
(3) 工学棟(溶接実験室)	小嶋 純
(4) 生化学実験室	王 瑞生
(5) 電子顕微鏡室	篠原也寸志
(6) 音響振動棟(無響室)	高橋幸雄
(7) 人工環境室	佐々木毅
(8) 被験者生活管理室	三木圭一, 佐々木毅

6. 講演会の開催および団体等の講師，講演等

(1) 労働衛生重点研究推進協議会シンポジウム

産業医学総合研究所主催の「労働衛生重点研究推進協議会」の活動の一環として平成13年の第1回に続いて平成14年11月1日に新宿安田生命ホールにおいて第2回公開シンポジウム「働く人の健康を考える公開シンポジウム」を開催した。この労働衛生重点研究推進協議会シンポジウムは、「21世紀の労働衛生研究戦略」がどのようなものでこれからの約10年間にどのように効果的に戦略を推進していくかを講演とディスカッションを通して考える場として、3年間で18優先研究課題それぞれに関連した講演またはディスカッションをおこなう計画となっている。

当日は、開会講演「日本における労働衛生研究戦略の推進」のあと、6題の講演とパネルディスカッションを行った。講演の「多様化する働き方のもとの健康課題 - 勤務時間制の弾力化へのアプローチ」と「就労女性の健康:ジェンダーの視点から」は、戦略のなかの「重点領域 産業社会の変化により生ずる労働生活と健康上の課題に関する研究領域」に含まれる、「多様化する働き方と健康」と「就労女性の健康」に関する講演であった。これらの演題は、長時間労働や裁量労働制など労働形態が大きく変容し、また女性の職場進出が目覚ましいなかで、あるべき研究を考えるために企画されたものであった。

同様に、「労働衛生における遺伝子変異と発がん」は、戦略のなかの「重点領域 職場有害因子の生体影響に関する研究領域」に含まれる「遺伝子影響とがん」に関する講演で、最新の研究技術を取り込んだ労働衛生研究とがんの問題がとりあげられた。

「焼却場労働者のダイオキシン類ばく露状況と今後の調査戦略」と「化学物質のリスク評価のためのばく露および影響指標の開発」は、戦略のなかの「重点領域 リスク評価と労働安全衛生マネジメントシステムに関する研究領域」に含まれる「職場環境の計測システムと管理技術の開発」および「健康影響指標の開発とリスク評価」に関する講演で、前者の講演では、微量でも発がん性や内分泌かく乱作用の可能性を指摘されているダイオキシンの測定の問題がとりあげられ、後者は、化学物質へのばく露が低濃度化する一方で見えにくくなっている健康障害を予防するための指標の開発に関する講演であった。

「化学物質の有害性の分類と表示 - 国際調和システム(GHS)の導入に向けて」、およびパネルディスカッション「労働衛生における国際動向と国際協力」は、「重点領域 」に含まれる「労働衛生国際基準・調和と国際協力」に関するものであった。18優先研究課題のひとつ「労働衛生国際基準・調和と国際協力」における国際基準・調和と国際協力は別個に取り扱い、それぞれ講演とパネルディスカッションでとりあげた。

シンポジウム当日は200名を超える参加者を得て、アンケートなどからもシンポジウムの内容や運営、会場や会場へのアクセスなどおおむね好評であったことがうかがえた。

演 題 名	講 演 者 (所 属)
挨 拶	館 正知名誉会長 (岐阜大学名誉教授)
挨 拶	上田博三 (厚生労働省労働衛生課長)
日本における労働衛生研究戦略の推進	
	荒記俊一副会長 (独立行政法人産業医学総合研究所理事長)
「優先研究課題講演」	
座 長:	高田 勲 (労働福祉事業団医監・中央労働災害防止協会技術顧問)

- 1) 多様化する働き方のもとでの健康課題 - 勤務時間制の弾力化へのアプローチ(重点領域)
小林章雄 (愛知医科大学医学部衛生学講座教授)
 - 2) 就労女性の健康:ジェンダーの視点から(重点領域)
荒木葉子 (株NTT 東日本首都圏健康管理センター東京健康管理センター所長)
座長:松下秀鶴 (静岡県立大学名誉教授)
 - 3) 焼却場労働者のダイオキシン類ばく露状況と今後の調査戦略(重点領域)
熊谷信二 (大阪府立公衆衛生研究所主任研究員)
 - 4) 化学物質のリスク評価のためのばく露および影響指標の開発(重点領域)
坂井 公 (東京労災病院産業中毒センター長)
座長:松島泰次郎 (中央労働災害防止協会日本バイオアッセイ研究センター所長)
 - 5) 労働衛生における遺伝子変異と発がん(重点領域)
竹下達也 (和歌山県立医科大学公衆衛生学教室教授)
 - 6) 化学物質の有害性の分類と表示 - 国際調和システム(GHS)の導入に向けて(重点領域)
宮川宗之 (産業医学総合研究所研究企画官)
- 「労働衛生における国際動向と国際協力に関するパネルディスカッション」
- 座長・パネリスト: 吉村健清 (産業医科大学産業生態科学研究所臨床疫学教室教授)
- パネリスト: 寺本隆信 (ILO 東京支局次長)
- 田川順一 (厚生労働省安全衛生部国際室長)
- 金子多香子 (株) 日本アイ・ビー・エム安全衛生産業保健部副部長)
- 中桐孝郎 (日本労働組合総連合会雇用労働局次長)
- 挨拶 櫻井治彦会長(中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長)
-

(2) その他

特別講演会(平成15年1月6日)

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 筋電図と作業関連筋骨格系疾患評価 | Thomas Läubli (スイス連邦工科大学) |
| 2. 化学物質の神経行動影響 | Kaye H. Kilburn(南カリフォルニア大学) |
-